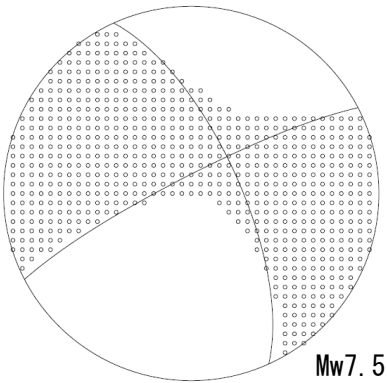


# 1月5日 米国、アラスカ州南東部の地震 (W-phase を用いたメカニズム解析)

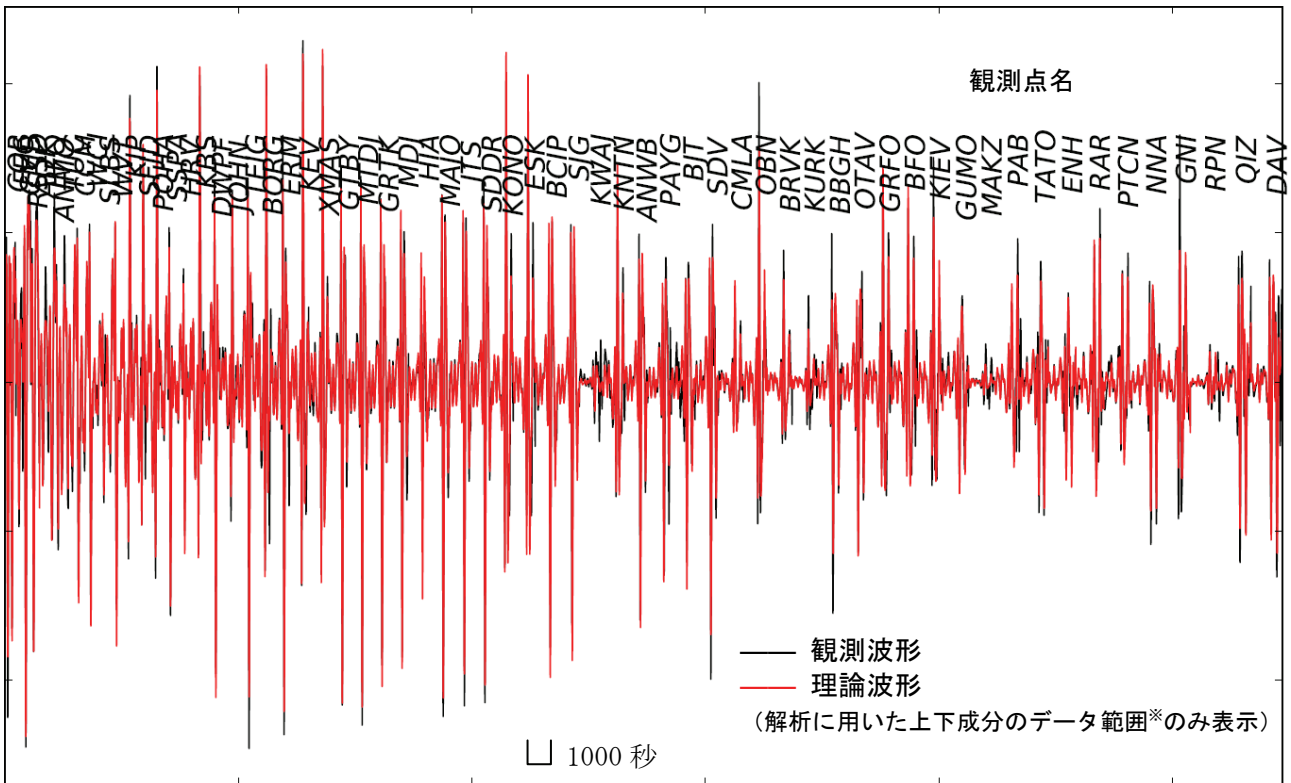
W-phase による解



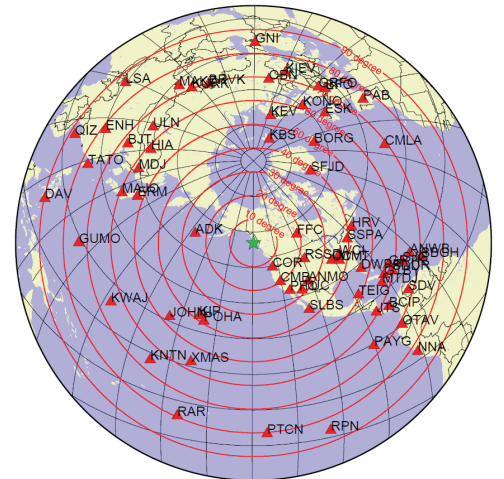
2013年1月5日17時58分（日本時間）に米国、アラスカ州南東部で発生した地震について W-phase を用いたメカニズム解析を行った。メカニズム、Mwとも、Global CMTなどの他機関の解析結果とほぼ同様であり、Mwは7.5であった。なお、W-phaseの解析で求めた震源はN56.0°，W134.8°，深さ12kmとなった。

W-phaseの解析では、震央距離10°～90°までの64観測点の上下成分、10観測点の東西成分、6観測点の南北成分を用い、100～500秒のフィルターを使用した。

注）W-phaseとはP波からS波付近までの長周期の実体波を指す。



※解析に用いたデータの範囲は15秒×震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。



解析に使用した観測点配置

(W-phaseに関する参考文献)  
Kanamori, H and L. Rivera (2008): Geophys. J. Int., **175**, 222-238.

IRIS-DMCより取得した広帯域地震波形記録を使用した。  
また、解析に使用したプログラムは金森博士に頂いたものを使用した。記して感謝する。